

魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年5月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、5月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業 NOW(5月分)」

東予地方局 地域農業育成室

■コロナ対策と東予農業の魅力発信について、普及組織と東予7 J Aが連携協議

- 東予地方局では5月29日、西条第二庁舎において、管内7 J Aの営農担当部長と農業普及関係者による、東予広域農業推進懇談会を開催した。
- 懇談会では、①新型コロナウイルス感染症に係る農業生産や流通販売への影響と現在までの取組み及び今後の対策について、②東予地域の特徴ある産品や独創的な取組を抽出・組み合わせた東予農業・農産品の魅力の情報発信について、協議。
- 新型コロナウイルス感染症の終息後をにらみ、農産物販売につながる取組みを強化していく必要があり、このことに関連して、「東予地域における農業・農産品の魅力発信」については、今回の会議を通じ、各 J Aからの要望や意見を踏まえて、今後、当懇談会が中心となって、具体的な対策案をとりまとめていくこととした。

■大玉の柿「太天」 500g以上の大玉生産を目指す

- 地域農業育成室では、局事業で実施した店舗や消費者の市場調査から、柿の「太天」は1個500g以上のインパクトのある大玉が好まれることがわかり大玉生産に目標を定め、昨年度までの実証ほの結果から、果実肥大に最も影響がある摘蕾を重点作業として指導することとなった。
- 技術指導は、コロナ感染予防のため集団指導を避け、資料配布や密とならない園地巡回で摘蕾指導を実施。
- 生産者は、ここ数年小玉果実が多くなっていたことを反省し、4月末から5月中旬にかけ、1新梢1花としたうえ、遅れて現れる花も徹底して除去し、目標サイズを意識した管理が行われた。



1 新梢1花の状態

■コロナに負けるな、「旬菜ボックス」を全国に発送

- 東予地域の若手女性農業者7名が組織する「たべとうみん」から、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、買い物に困っている都会へ、会員が生産した農畜産物を詰め合わせた「旬菜ボックス」を販売したいという意向を受け、地域農業育成室は、その企画・運営を支援した。
- 開始初めの3月は、認知度も低く5箱を発送しただけに終わったが、パンフレットをリニューアルし、SNSでの情報発信を重点に行い、4・5月は、62箱（リピート率約50%、定期発送3件）を発送することができた。
- また、5月に入って、SNSでの情報発信がきっかけとなった松山市の飲食店やネットショップとの取引も始まるなど新たな販路開拓につながった。
- 利用した消費者からは、「生産者の顔が見え安心」「新鮮な旬の野菜が食べられるので、リピートしたい」など好評で、さらに、ボックス内容の充実に向け生産出荷できる農産物などのアイテム数を増やしていく予定。



リニューアルしたパンフレット

東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

■やまじ丸 全国の消費者へ販売開始

- 四国中央農業指導班は、JAうま及びネット販売業者の株式会社ジェイズフロンティアと連携し、愛あるブランド産品の「やまじ丸」のネット販売を今年度から開始した。
- ジェイズフロンティアが手掛ける販売サイト「産直だより」は、Yahoo!ショッピングや楽天市場・Amazon等にも出店している。Yahoo!ショッピングや楽天市場の青果部門の年間ベストストアに選ばれるなど顧客評価も高い。
- 5月中旬時点で150kgを全国の消費者に販売。
- 同班は、JAうまやジェイズフロンティアと連携し「やまじ丸」の知名度向上及び販売量増加を目指していく。



「産直だより」でやまじ丸掲載

東予地方局今治支局 地域農業育成室

■コロナ終息後を見据えた地産地消活動推進を協議

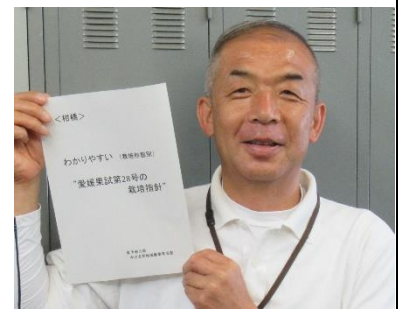
- 地域農業育成室及び産地戦略推進室は、5月19日、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている農産物の支援を目的に、JA、市、県の関係者12名が出席して「第1回今治地区農産物地産地消推進緊急プロジェクトチーム会」を開催。
- 県が新たに設置した「個別経営体支援チーム」の取組みについて周知するとともに、緊急支援として価格が暴落したさくらひめ等の花きについては今治地域内の官公庁・団体の職員による購入支援を継続することとした。
- さらに、支局の提案により地元メディア「コミュニティFM」「今治ケーブルテレビ」の協力を得て、5～6月、花き生産者、JA・県の担当者が出席して今治産花き・花木のPRを行い消費拡大に努めることが決まった。
- 今後、第2回チーム会を6月中旬に開催し、支援の具体策を検討する。



プロジェクトチーム会

■愛媛果試第28号（紅まどonna）の“わかりやすい栽培指針”を作成

- 地域農業育成室は、普及ビジョンにおいて愛媛果試第28号（紅まどonna）の高品質果実生産を目指して指導している。
- 農家から「紅まどonnaの栽培形態別で、わかりやすい栽培指針を作成してほしい」との要望があった。
- 愛媛果試第28号（紅まどonna）の栽培形態は、①通年被覆栽培、②簡易屋根掛け栽培、③露地栽培がある。
- そこで当室では、一律の指導ではなく、きめ細かく農家に対応するため“栽培形態別のわかりやすい栽培指針”を作成した。
- この指針の特徴は、防除のみならず施肥や剪定などの作業を一体的にして、時期別に記載し、新規就農者やI・Uターン農家、定年退職就農者など“初心者農家が分かりやすい”形式にしたものである。



わかりやすい栽培指針

■サトイモ「伊予美人」増収・増益に向けて栽培始まる

- 地域農業育成室では、土地利用型の高収益作物として、機械化体系による省力化が可能なサトイモ栽培を推進している。
- 管内JAの昨年度販売実績は約1.2億円であり、約1.8億円のキュウリに迫る主要品目である。しかしながら、新規導入者や大規模生産者も多く、栽培管理技術に未熟な点が見られることから、5月11日～13日に集落営農法人を含むサトイモ生産者8者（合計面積15ha 前年比3ha増）に対し、5～6月に重要な「土入れ」、「疫病の予防防除」等の栽培管理指導を行った。
- 次回は栽培に最も重要な「灌水」と「適期防除」を中心に指導する予定であり、生産者の栽培管理技術が向上し、省力で高品質・安定生産に資するよう、定期的に栽培管理指導を行っていく。



栽培管理技術を説明



「土入れ」を説明

東予地方局今治支局 産地戦略推進室

■しまなみ産オリーブの栽培技術確立を目指して、実証試験スタート

- 産地戦略推進室は、5月11日、今治市吉海町でオリーブ生産者6名に対して、令和2年度の技術実証内容を周知するとともに、害虫防除の薬剤散布を実演した。
- しまなみ産オリーブは、平成26年から栽培が始まり、現在2haまで面積は拡大しているものの、栽培技術が未確立である。そこで、地域にあった病虫害防除のモデルを作成するために「病虫害の実証」等栽培技術に係る3課題の実証を行う。
- また、今年は花蕾数が昨年に比べ多く、大幅な収量増等が見込まれることから、生産者の栽培意欲が高まっている。同室は、引き続き高品質安定生産技術を確立するように栽培指導を徹底する。



生産者に実証内容を説明している様子



実証ほにおける害虫防除実演の様子

■今治産花木・花きの需要拡大に向けた応援番組の制作支援について

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、販売が低迷している花木・花きについて、産地戦略推進室は地元での需要促進を目的に、今治ケーブルテレビ（今治CATV）に働きかけ、5月28日、29日に応援番組の収録作業を行った。
- 収録内容は、花木の活用例として、生産者と今治CATV レポーターによる今治産「ビブナム・ティナス」、「ピットスポラム」等を使用した花木リースの製作、現地において生産者自身による「ビブナム・ティナス」、「さくらひめ」等の栽培紹介や、普及指導員からの今治産花き・花木の生産、流通・販売の現状や支援に向けた取組み紹介等であった。
- 生産者からは「花木の活用例をアピールすることで需要の創出につながる」、「きれいな花木リースをもっと地元の方にも知ってほしい」等の意見があり、番組放送へ期待を寄せていた。
- 同番組は6月5日（金曜日）19:00に30分番組で初回放送があり、再放送は6月19日（金）20:00の予定。



ケーブルテレビとの打ち合わせ

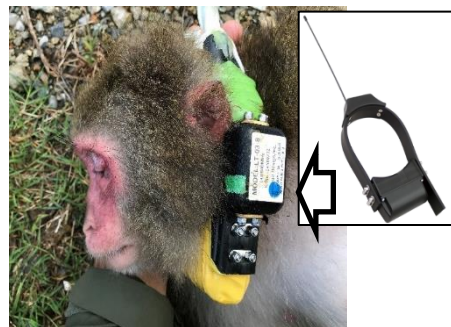


現地ほ場での取材の様子

中予地方局 地域農業育成室

■ニホンザルの被害防止対策に向けて

- 地域農業育成室は5月19日、第二種特定鳥獣管理計画「第1次愛媛県ニホンザル適正管理計画」の策定を受け、松山市と本年度のニホンザル対策について協議した。
- 伊台実川地区では、ニホンザルによるブドウ被害が増加していることから、地域ぐるみで花火等によるニホンザルの追い払い活動を実施しており、同室では本年度の新たな取り組みとして、発信機を用いた行動実態調査や調査に基づく捕獲を進めていくこととした。
- 6月下旬に地区の座談会で合意を得たのち、実践活動を開始する予定。



発信機付き首輪装着のイメージ

■農福連携について関係機関と協議

- 地域農業育成室は 5 月 29 日、担い手の労働力確保の一環として、農福連携の推進について、JA 等関係機関の担当者と情報交換を行った。
- 関係機関からは、「生産者の高齢化により労働力不足の状況にあるが、家族労働中心の経営体は雇用に係る事務手続きや労務管理などに慣れていない。また、農福連携の仕組みの啓発がさらに必要」等の意見があった。
- 農福連携による労働力確保を期待している生産者もいるため、同室では、農福連携の仕組みや事例の紹介、委託可能な作業内容の洗い出しを行い、農福連携の利用拡大を進める。

中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

■中山町でトマトの新たな品種を検討

- 伊予農業指導班は、今年から JA えひめ中央・中山トマト部会と連携して、トマトの新品種「りんか」の試験栽培を生産者 4 人のほ場 (0.1 a) で実施しており、5 月 2 日から生育状況や品質等を調査し、産地としての導入を検討することとした。
- 同部会では、現在栽培している「桃太郎 8」、「桃太郎セレクト」の 2 品種が、日焼けや裂果により廃棄される割合が高いことから、これに替わる新たな品種として期待している。
- なお、久万高原農業指導班の実証ほ場においても試験栽培を実施しており、結果が良ければ今後、本格的な導入を計画している。



左：試験品種「りんか」

中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

■久万高原で新たなブランドづくりに取り組む

○久万高原農業指導班は5月22日、漬物向け高原野菜の生産拡大に向け「第1回久万高原ブランドづくり推進会議」を開催し、関係者と漬物の商品開発等について協議した。

○これは、久万高原町の特産品として漬物の商品化や高原野菜の生産拡大を図る目的で、昨年度から局予算「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」として実施。

○会議では、昨年度の実績を踏まえた漬物向け野菜の栽培実証や漬物の新商品の開発目標、品質評価等について協議したほか、移住農業者をターゲットとした技術伝承のためのワークショップや漬物を評価するイベントを開催することになった。

○アドバイザーの大塚名誉教授（松山東雲短期大学）から、塩の種類によって漬物の味わいの変化することや燻製にすることによって風味が増すことなどの助言があり、今後の商品開発に生かすこととなった。



推進会議の様子

■トマト産地の新たな課題解決に向けた取り組みを開始

○久万高原農業指導班は、今年度からトマト産地が抱えている新たな課題として「灰色かび病対策による正品率の向上」、「出荷予測技術導入による産地情報発信力の向上」に取り組んでいる。

○灰色かび病対策としては、5月8日に若手栽培農家に実証ほを設け、発生の原因と考えられるカリウム欠乏（葉先枯れ発生）やカルシウム欠乏（花弁の落下不良）にならないよう土壌管理を徹底するとともに、生物農薬と農薬の定期散布を組み合わせた感染防止対策の実証を行う。

○また、トマト施設内の温湿度等の計測やアメダスのデータ、生産者からの生育状況（生育の写真とホルモン処理実施日等）をSNSで情報提供してもらい、収穫開始時期や出荷量等のデータを集積し、出荷予想プログラムを構築する。

○指導班では、得られたデータをもとに

J Aや部会と検討を重ね、市場等へ産地情報を提供し、需給バランスの調整と安定した収益の確保を目指すこととしている。



ハウス内環境を計測する実施ほ場

■ピーマンの初期摘果による生産性向上実証を開始

○久万高原農業指導班は5月18日、ピーマンの初期摘果が生産性に与える影響を調査する実証ほを設置し、生育や収量状況の調査を開始した。これは普及ビジョンの推進及び若手普及職員の資質向上に向けた研修の一環として実施している。

○管内のピーマン栽培は、平均収量5.5t/10a（目標7.5t）と低く、栽培技術の向上が課題となっていることから、摘果による栽培初期の着果負担を減らし、生育を旺盛化させることで長期収穫ができる栽培体系を確立し収量の向上を目指している。

○今後も定期的な調査により生育状況等を確認するとともに、調査終了後は結果を取りまとめ、講習会等において生産者へ周知し、生産性の向上を図る。



生育調査の様子

中予地方局 産地戦略推進室

■パクチー売り場にレシピ集を配置！ 家庭での利用を促進

○産地戦略推進室は、新型コロナウイルスの影響で飲食店等における需要が低迷しているパクチーを家庭料理にも取り入れてもらい、消費拡大に繋げるため、調理方法や食べ方などを紹介した小冊子を作成し、5月1日に松山市内の直売所「太陽市」のパクチーコーナーに配置。

○本冊子は、地方局予算「東温パクチー産地づくり事業」を活用し、愛媛調理製菓専門学校との協力を得て開発したレシピに、新たにお手軽メニューや効能などを追加し編集したもので、料理ごとに作りやすさやパクチーの風味度合いを示しており、これまでパクチーを食べたことのない人にも利用しやすい内容としている。

○冊子はこれまでに約150部が来店客に持ち帰られ、パクチーの売れ行きも良好とのことであり、当室では本取組やメディアでの情報発信等を通じ、さらに「東温パクチー」の認知度向上と需要拡大を推進する。



直売所のパクチー売り場に配置した家庭料理レシピ集

■「甘平」の裂果対策に向けた調査を実施

- 産地戦略推進室は、産地づくりビジョンで「甘平」の連年安定生産に取り組んでおり、隔年結果や裂果等の課題解決に向け、管内の農家と連携して5ヶ所に調査園を設置し、有望技術の実証と調査を行っている。
- 昨年は、県下で特に裂果が多く発生したことを受け、裂果の発生が少ない園地の立地条件や栽培特性を把握するため、今年度、管内で新たに4ヶ所（現時点）の調査園を設置。4月下旬からこれらの園地を順次巡回し、開花状況等の調査を実施している。
- 5月29日には、このうち松山市浅海地区の2園地を訪問し、現在の着果や生理落果の状況を確認するとともに、生産者から昨年の裂果状況や園地の特徴、灌水管理等について聞き取りを実施。今後も引き続き調査を実施していく予定。



「甘平」の調査園で着果状況等を確認

南予地方局 地域農業育成室

■南予柑橘復興に向けた事業の円滑な実施に向けて

- 地域農業育成室では、柑橘農業復興支援に向けた各事業の円滑な実施を目的に、昨年度から、南予地域柑橘農業復興対策チームの下に、JA えひめ南、宇和島市、地方局の実務担当者で構成する「営農支援班」を設置し、各事業についてスピード感を持って取り組んでいる。
- 5月22日、「第1回営農支援班」を開催し、①再編復旧及び未収益対策、②労働力補完対策、③柑橘農業復興関係事業、④JA 出資型農業法人等の4項目について各機関から各事業の現状及び対応・課題についての報告があり、今後も各機関で連携しながら各事業に取り組むこととした。
- 特に、新型コロナウイルスの感染拡大の状況次第では、収穫時期を中心とした県内外からのアルバイト・ボランティアの確保が困難となり、収穫作業が滞るおそれもあることから、出席者も危機感を持っており、今後、JA えひめ南を中心に警戒レベル（対策期・警戒期・縮小期）に応じた労働力確保の方針について早急に検討を進めることとした。
- 当室では、労働力確保の方針作成について積極的に参画することとし、労働力確保と感染防止の両立に取り組む。



復興関係事業について協議する関係者

南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

■ブロッコリーの根こぶ病防除実証開始

○愛南農業指導班は5月22日、ブロッコリーの栽培面積の拡大（R1:31ha）とともに、トラクター等に付着した土壌を介して他ほ場に伝染する「根こぶ病」の被害拡大が栽培上の大きな課題となっていることから、JA、栽培農家等と連携した根こぶ病防止対策実証の取り組みを開始。

○当日は、次期作定植予定（8月定植予定）ほ場において、対策前の土壌中菌密度を測定するために土壌を採取した後、殺菌剤等の薬剤散布区や土壌中の菌の密度を下げるためのおとり植物（エンバク）播種区等の試験区を設置。

○同指導班では、各試験区の防除効果を検証するとともに、耐病性品種導入や土壌の理化学的改善、作付時期の選択等、複数の防除対策を組み合わせた実証試験に取り組み、低コストで効果の高い防除方法を究明し提案する。



防除方法について関係者と協議

南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

■キウイフルーツ花粉ビジネス：かいはよう病感染防止対策・早期成園化に向けて

○鬼北農業指導班は、キウイフルーツの花鈴栽培から精製、販売までを一括して行う新たなビジネスモデル（実施主体：「松野町キウイフルーツ花粉事業組合」組合員6名）について、当初の事業化から栽培技術確立までを支援しており、5月13日の総会では、キウイかいはよう病の特徴と感染予防の重要性を説明した。

○総会後の園地互評会では、モデル園（3園地ハウス）の生育状況を確認し、肥培・病害虫防除などの管理指導を行った。参加した組合員は、昨年設置したモデル園の早期成園化を行うとともに、新規栽培者の掘り起こし及び花粉の取り扱い企業や流通組織との連携を図ることを申し合わせた。

○鬼北農業指導班は、令和4年度の花鈴精製を目指して、苗木の育成指導を行い、全国初となるキウイフルーツ花粉の産地づくりを推進、又は支援する。



総会での防除・感染予防指導



会員ハウスで苗木育成栽培指導

南予地方局 産地戦略推進室

■ゆずの低樹高化で作業効率アップを目指す

- 産地戦略推進室は5月13日、鬼北町で鬼北農業指導班及びJA えひめ南と連携し、ゆず栽培の省力化を目的とした樹高切下げの実証モデル園地を設置。
- 鬼北地域のゆずは、樹勢の強さなどから背丈の倍以上の樹が多く、作業環境の悪い状況に加え、生産者の高齢化などにより、産地を維持していくには作業の省力化、効率化が喫緊の課題となっている。実証農家からも「低樹高化に取り組まないと収穫作業が大変なので、実証結果をぜひ参考にしたい」との意見があった。
- 当室では、11月に作業時間や収量の調査を実施し、樹高切下げの効果測定を行う。



低樹高化のポイントを生産者に指導



樹高切り下げ前



樹高切り下げ後

■河内晩柑 PR グッズで販売を促進

- 産地戦略推進室は5月下旬から、河内晩柑の魅力発信と消費拡大を目的に、キャッチコピー「ほとぼる果汁！みなぎるオーラ！」を使用したPRグッズ（のぼり旗等）を、管内の産直市に貸し出し、一体的なPRを進めている。
- 産直市の店長らからは「新型コロナウイルスの影響により、売上は例年より減少しているが、河内晩柑の販売は8月頃まで続くので、PRグッズを活用しながら販売促進に努めたい」との声が寄せられている。



ミニのぼりによる販売促進

※キャッチコピーとPRグッズは、局予算「河内晩柑魅力発信事業」を活用して、宇和島市、愛南町及びJAえひめ南と連携して同室が作成。

南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

■舌田担い手支援チームの設立と活動支援

○八幡浜支局地域農業育成室は、柑橘産地の担い手を確保するため、農業体験、農業研修から就農・定着までのサポートを行う地域の受入れ体制づくりをJAと連携して進めており、5月1日、未整備地区だった舌田地区で、「舌田担い手支援チーム」を設立した。

○同支援チームは地元柑橘共同選果部会共選長、研修受入農家等7人で構成されており、5月から県外の研修生1名の研修を開始。1年を通して柑橘栽培の指導に取り組み、研修中に農地、倉庫等の借入相談を行い、研修後は地元での就農を目指す。

○管内には8地区で支援チームが設立されており、現在、県外からの研修生9人を含め10人の研修を実施している。今後当室では、残りの未整備地区での支援チーム設立を支援し、最終的に管内全域をカバーできるようにしていく。また、管内支援チーム合同で研修生受け入れ側の勉強会を開催するなど、支援チーム設立後のフォローにも取り組む。



設立協議及び研修生自己紹介

■コロナに負けるな！首都圏にふるさとの思いを届ける

○八幡浜支局地域農業育成室及び産地戦略推進室は、NPO法人みかんの花工房(矢野洋子理事長)と地域産物の農産加工研究に取り組んでいる。

○5月26日、八幡浜市及び市内就労支援施設と連携し、法人で製造した加工品やマスクなどを詰め合わせたギフトセット160箱を作成。新型コロナウイルスで影響を受けた首都圏の同市出身者等に対し、「加工品によって、ふるさとの便りを届けよう」との思いで、市の支援を受けて発送することとした。

○当日は、会員7人が手際よくマーマレードやフキの佃煮、ひなあられ、レモン等11品を箱詰めし、発送準備を行った。

○両室では、今回同封した加工品の評価等のアンケートを取りまとめ、今後の商品開発や販路開拓を検討していく。



箱詰め作業に取り組む会員

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

■収入減を防げ！シャインマスカット開花異常に耕種的対応策

- 本県では内子町で集中的にみられるシャインマスカットの開花異常が今年も発生。主穂先端に最も出やすく（写真左）、まともに開花せず果粒にならない症状で、商品価値を著しく低下させる。開花直前まで症状の有無を確認できないものもあり、花穂整形で残した主穂に被害が出るため農家の精神的ダメージは大きい。
- 果樹研究センターと共に調査中（2年目）であるものの、原因・要因は未特定。
- 指導班では昨年度、花穂整形時に保险的に4cm程度の支梗を残す試験を実施し、主穂での開花異常発生時の代替として、収穫時の1粒重、房重等が十分なことを確認。
- この対応策は、花穂整形前の周知が重要であることから、5月14日のジベレリン処理講習、28日摘粒講習等の集団指導に加え、昨年度発生園地を重点的に個別巡回するなどにより、減収を未然に防ぐ対策を徹底中。



主穂先端の開花異常症状



残した支梗
(主穂は除去(赤印))



講習会で対応策の有効性を説明

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

■水稻湛水直播栽培の新技术、実証試験を実施

- 西予農業指導班とJAひがしうわでは、水稻湛水直播栽培の新技术の実証試験を、昨年より実施している。内容は、新資材「べんがらモリブデン」（酸化鉄+モリブデン化合物）の播種剤コーティング栽培法で、従来のカルパー（過酸化カルシウム）剤より安価なのがメリット。
- 今年は、昨年と経年比較するため、ほ場を変えて栽培し生育や収量を調査するとともに、コーティング時に同時処理できる新しい農薬の実証も行う。
- 結果は指導班でとりまとめ、新たな低コスト安定生産技術として、生産者組織「水稻直播研究会」で導入を検討する。



湛水直播「代かき同時土中打ち込み点播」
通称「ショットガン直播」

南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

■川田温州の連年生産に向けて、新梢管理のポイントについて指導

○産地戦略推進室は5月22日、「新たな果樹産地づくり推進事業」(局予算)に係る川田温州産地化検討会及び栽培研修会を真穴地区の現地ほ場で開催。同会には、生産者14名と関係機関職員が参加した。

○検討会では、昨年度実施した摘果時期の違いと果実品質に関する実証成果や栽培暦の見直しについて報告。

また、参加者で連年安定生産を目的とした半樹別交互結実させている樹の着花、新梢発生状況を確認するとともに、新梢管理と摘果剤の利用について講習を行った。

○川田温州は隔年結果性が極めて大きく、この時期に行う生理落果を抑制するための新梢管理が、連年生産のためには重要な作業となるため、参加者は摘心処理の方法について熱心に耳を傾けた。

○現在、八幡浜地区では約2haで川田温州が栽培されており、当室では、半樹別交互結実を中心とした安定生産技術の普及による生産拡大とブランド化を支援する。



川田温州の新梢管理のポイントについて指導

農産園芸課 高度普及推進グループ

■県産いちごの更なる飛躍へ ー高収量ほ場実態調査×春期品質調査ー

- 高度普及推進グループは、急速に産地規模を縮小している県産いちご栽培の収益性向上を図るため、県下の高収量ほ場の生産実態を一斉に調査するプロジェクトを立ち上げ、5月22日には、県下普及拠点の調査に先立ち、伊予市にある高収量園地を調査した。
- 当日は、専用の培土を使用し、培地量も大幅に増加させている自作の高設栽培システムを調査し、培地断面等を確認するとともに、掘り出した株を解体調査するなどして、15年以上の使用でも物理的な構造がほとんど変わらない培地の優位性を確認するほか、芽数の発生が少ない「あまおとめ」「紅い雫」では、ランナーから発生する小苗を利用した2株同時栽培が高収量をもたらしていること等を確認した。
- また、同グループは、県育成品種「紅い雫」等の品種優位性を市場、量販店関係者等にアピールするため、高温となる春期の品質及び棚持ち等の調査を開始。他品種と比べて果実の黒ずみがなく、光沢・果色で明らかに優位性があることを確認した。
- 同グループでは今後、栽培技術の抜本的な改良を視野に入れた取組みや、市場、量販店関係者等へPR活動を展開し、県産いちごの産地維持、拡大を目指す。



普及員による掘取り調査の様子



紅ほっぺ

紅い雫

「紅い雫」と「紅ほっぺ」の品質保持試験

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543